



本の探し方 本の並び方 ~請求記号とラベルについて~

探したい本のタイトルや著者名がはっきりとわかっている場合は、館内の利用者用検索端末機で調べてみてください。その本が図書館にあれば、本を探す手がかりとなる「請求記号」がわかります。「請求記号」というのは本の番地のようなもので、それがわかると図書館のどの書架にあるのかがわかるようになっています。

図書館の本は原則として日本十進分類法(NDC)に基づいて並べられています

現在、日本のほとんどの公共図書館は日本十進分類法という分類法を採用しています。二宮町図書館でも原則としてこの分類を使用しています。

十進分類法では、まず本を大きく10の類に分けます



本はその内容によって、まず 0 類「総記」 1 類「哲学」 2 類「歴史」 3 類「社会科学」 4 類「自然科学」 5 類「技術」 6 類「産業」 7 類「芸術」 8 類「言語」 9 類「文学」の10の分類に大きく分けます。さらに2桁め、3桁めと10に分けて分類し、3桁(もしくは小数点以下2桁まで)の数字で表します。(2桁め(10×10分類)までの綱目表は館内配布の「利用案内」や、2階小説書架脇の柱にも掲示しています)

例えば、自分の探したい本が『地震を知る事典』だとすると、まず大きな分類では自然科学の分類になるので 4、その中の地学で 5、さらにその中の地震学ということで 3 となります。そのためこの本は「453」に分類されます。そして、本の著者が勝又護ということで分類記号に著者の頭文字「カ」を合わせた「453カ」がこの本の請求記号となっています。

本の場合は資料詳細票ですぐにわかります

本が在庫の場合は「資料の内容を印刷する」ボタンを押すと資料詳細票が印刷されます。この右下に書いてある請求記号を手がかりにすれば本の場所がすぐにわかります。また「資料の場所を表示する」ボタンを押すと、おおよその書架の位置が赤で表示されます。分類ごとの書架がどのように配置されているかは、館内の配架図でご確認ください。



「資料の場所を表示する」展開画面



資料詳細票

ラベルの表示と並び方の原則について

本には背表紙の下部にラベルが貼ってあります。一般書のラベルは青枠です。ラベルには分類の数字と著者の名前の頭文字等のカナを組み合わせた請求記号が書かれています。本は原則として書架の左上から右下へ、数字順、五十音順に並んでいます。

またラベルの色や形でも配架場所を分けています。ティーンズ向けの本は黄枠、辞典や調べ物などの参考図書は赤枠、外国語で書かれた図書は水色枠、児童書は緑枠、児童文学研究図書は茶色枠となっています。



ティーンズ



参考図書



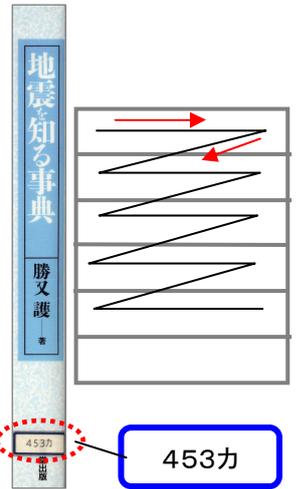
外国語図書



児童



児童文学研究



別置について

基本的に本は十進分類法に基づいて番号順に並んでいます。例外もいくつかあります。当館では、小説やガイドブックのように発行点数が多い分類の本や、コンピュータ関連図書のようにまとまっているほうが利用しやすい本などを、十進分類法通りの番号順の場所から離れて別の場所に配架(別置)しています。その場合、請求記号の一部を変えたラベル表記にしたり、シールを付与するなどして別置とわかるようにしています。

例)

アカ 日本の小説 … 日本の小説は分類「913.6」を省略し、著者の頭文字2字のカナ

291.0ル 旅行ガイド … 旅行のガイドブックはラベルの上に透明青シール

627カ 園芸関連図書 … 家庭菜園やガーデニング等の園芸書はラベルの上に透明緑シール

596ア 暮らし関連図書 … 手芸、料理、育児など生活関連本はラベルの上に透明ピンクシール

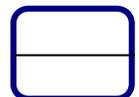
007エ コンピュータ関連図書 … コンピュータ関連の本はラベルの上に透明オレンジシール

812イ 岩波新書 … 岩波新書はラベルの下に金色の丸シール

708ア 大型本など … 大型の本などサイズやシリーズ等の関係上本来の場所以外にあるものはラベルの下に緑色の丸シール



館内シール



地域資料
2段ラベル

館内ラベルと地域資料について

背表紙に「館内」というシールが貼ってある本(基本的には「参考図書コーナー」の資料)については館内閲覧のみで貸出はできません。また、2段ラベルの地域資料に関しても館内閲覧のみとなっています。

ご不明な点はどうぞお気軽に2階カウンター職員におたずねください 